

# 自然観察 NOW

NO : 42

野幌森林公園自然情報

発行：2019年10月10日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



## 野幌森林公園のカエデ (モミジ)

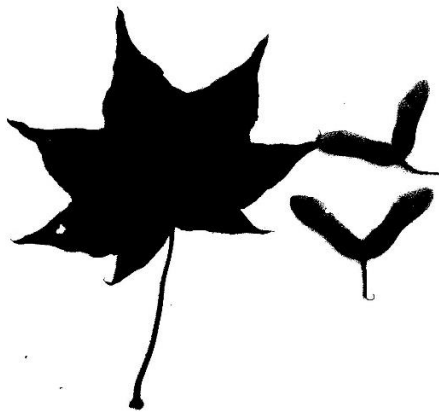
秋になると山を彩るカエデの紅葉は、古くから人びとの目を楽しませてきました。北海道ではイタヤカエデの黄色が主ですが、ハウチワカエデ、オオモミジ、ヤマモミジなどは赤くなります。野幌森林公園では10種(植栽されたものを含む)ほど見られます。モミジとカエデの違いは?、植物学ではどちらもムクロジ科カエデ属で、同じ仲間をさす言葉です。カエデ属は落葉広葉樹のなかでも最も栄えた植物のひとつで、日本では20種位、世界では160~200種位あります。

野幌森林公園で多く見ることができるイタヤカエデは日本全国に分布するカエデで、葉の切れ込みが浅い特徴があります。オオモミジは太平洋側に多く、ヤマモミジは日本海側に多く両種とも切れ込みが深いです。イロハモミジは東南北部から西日本の標高の低い所に多く、北海道では公園に植えられています。

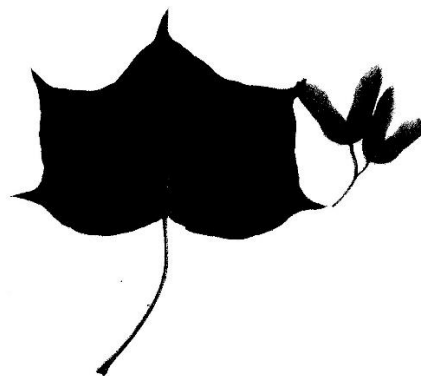
カエデ(モミジ)の大きな特徴は暗い森のなかでも生き延びる粘り強さで、春一斉に素早く葉を広げて全面で光合成を行います。なかでもイタヤカエデは葉柄の長さをかえることでうまく葉を配置しています。カエデは花も葉と一緒に開花します。

\*カエデの葉と果実の形を観察してみよう

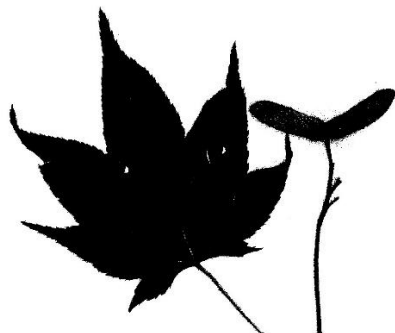
イタヤカエデ



アカイタヤ (イタヤカエデの変種)



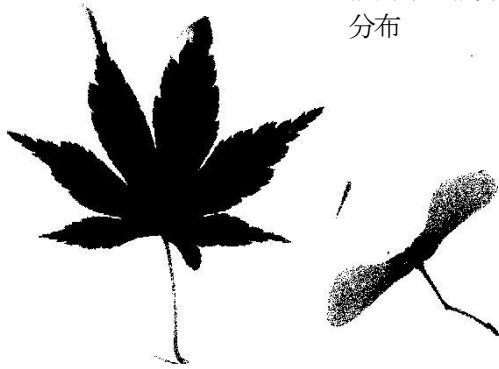
オオモミジ



ヤマモミジ



イロハモミジ



※参考掲載  
福島県・福井県以西  
分布

ハウチワカエデ



カエデの果実には、どれも翼がついています。果実は2つが向き合ってくっついていて、種によって果実の角度に違いがあります。果皮の一部が翼を形作っています。翼とともに成長した種子は秋に成熟し、2つセットの果実はバラバラになり、くるくるまわりながら風に乗って遠くに運ばれるようにうまくできています。

### \*カエデ (モミジ) の生き方

カエデの種子は光の弱い林床でも芽を出すことができます。しかし地面に落ちた種子の9割以上は昆虫や動物に食べられたり、乾いたり、菌にやられたりして腐って死んでしまいます。運良く芽生えても1年を生き延びるのは2割ほどしかありません。こうして競争を生きぬいたカエデの稚樹は毎年短く枝を伸ばしながら、幹や枝を高く伸ばすチャンスを待ちます。

競争を勝ち抜いて育ち、子孫を残すには枝や幹を大きく伸ばす必要があります。カエデの多くは光の弱い森の中で、稚樹として耐えて生きのび、林冠に穴があくのを待ちます。そしてそのチャンスが訪れると、一気に枝や幹をのばして大きく成長します。とはいえ、種類によって生き方には個性があります。オオモミジはマイペースでたとえ林冠の穴を利用できなくても、ゆっくりと成長しつづけて林内で地道に子孫を残します。イタヤカエデは林冠に穴を見つけると、グングン成長して林冠に達するまで大きく育ち高木として生きます。

### \*カエデ (モミジ) の魅力

カエデの魅力はなんと言っても秋の紅葉(黄葉)。種によって黄緑から黄、だいたい、紅と鮮やかな色合いの変化で目を楽しませてくれます。いっせいに葉を開くカエデ(モミジ)では、紅葉は枝の先、木の上のほうの葉から始まります。これは太陽の強い光にさらされて、たくさんの光合成をして働いたので老化がはげしいためです。

紅くなるしくみは、光合成でつくられた養分からアントシアンが合成されると葉が紅くなります。黄色が現れるしくみは、緑色のもとである葉緑素が分解され緑色が消え紅色が現れないと光合成を助ける物質であるカロチノイドの黄色が現れて黄葉します。ぜひ楽しみながら観察してみましょう。

#### 観察会予定

晩秋の森観察会志文別コース	10月20日(日)	10:00~14:30	集合場所	自然ふれあい交流館
秋のありがとう観察会	11月3日(日)	10:00~12:30	集合場所	自然ふれあい交流館

参考文献 カエデ(モミジ)の絵本 田中 浩 農山漁村文化協会

文責 菅美紀子